

第 1 章 「ワーク基礎力形成支援」の開発

1 開発の目的

職業センターにおいては、J D S Pにより、職場復帰を目指す気分障害等による休職者が職場適応能力の向上や職務再設計によるキャリアを形成するための支援技法とともに、雇用する事業主が労働環境整備を推進するための支援技法の開発を行い、地域障害者職業センターで行われているリワーク支援等に資するために、その成果を伝達・普及しています。

J D S Pでは、プログラム受講者（以下「受講者」という。）の障害特性に応じた個別カリキュラムを設定し、ロールプレイ、グループワーク、作業、個別相談といった方法を用いながら、受講者の活動性、ストレス対処、集団適応、職務遂行、環境適応といった各種スキルの習得のための支援を行っています。

当該支援における過程で、初めての就職で同僚との能力の違いを感じて自信を失い休職に至った受講者や復職と休職を繰り返し将来への不安を募らせている受講者への対応が必要となってきました。このような受講者に対して、「自らの経験から得た強みの見つめ直し」や「職場復帰後の働き方の整理」といった、キャリアに係る振り返りを行ったところ、その他の課題を有する受講者においても、自己理解や職場で求められる働き方に関する理解がすすみ、復職後職場に適応し、その状態の継続に有用であることが認められました。

こうしたことから、①自らの価値観などの自己理解の深化 ②職場や社会生活で担う役割の正確な理解などを「ワーク基礎力」と定義し、平成 23 年度からその習得と向上を図るための「ワーク基礎力形成支援」技法の開発を行ってきました。

このワーク基礎力形成支援は、現在 J D S P のロジックモデル（プログラムの目的を達成するまでの論理的な因果関係に関する図式）において図 1 に示す位置づけとなっています。

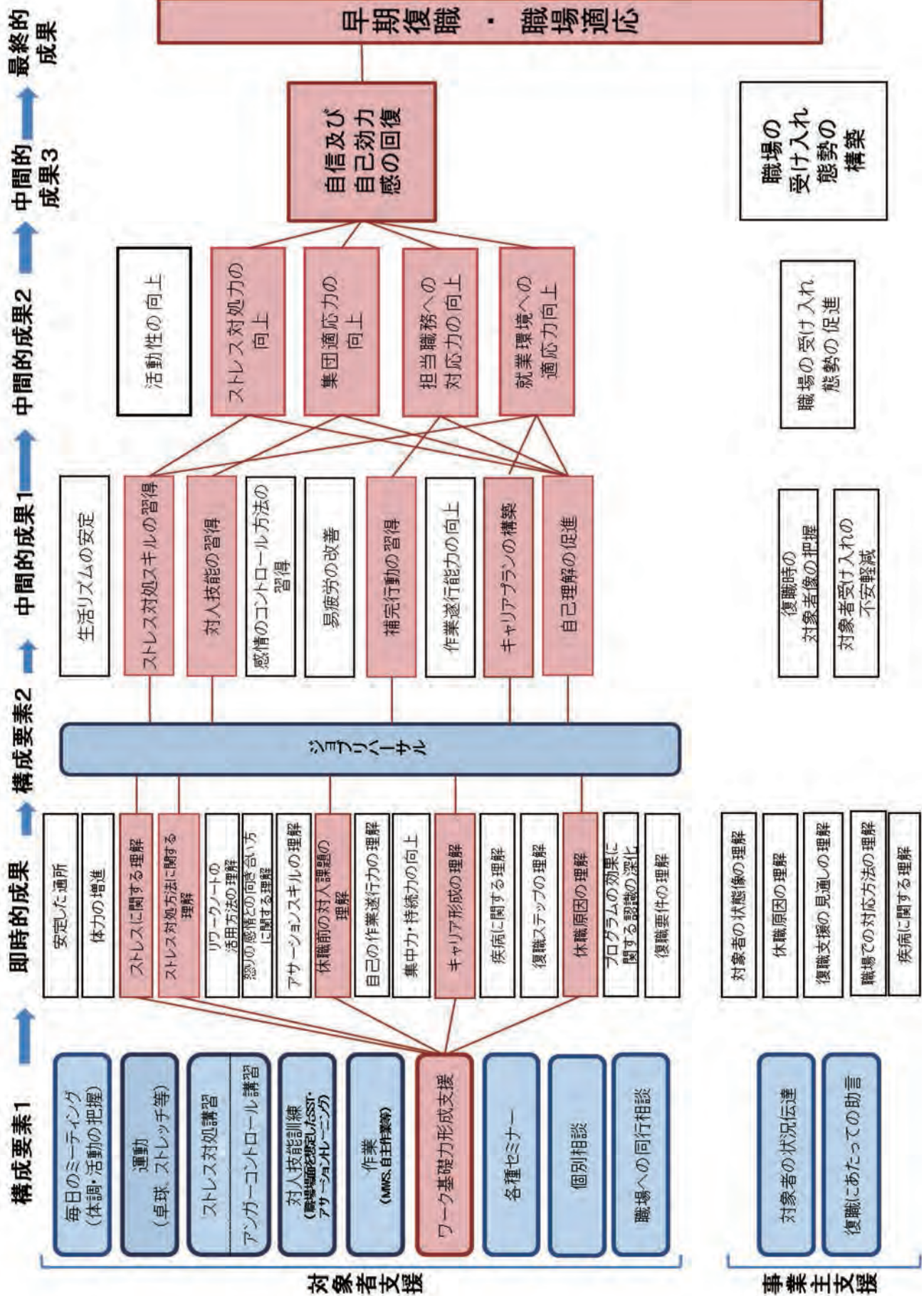


図1 JDSPのロジックモデル

2 ワーク基礎力形成支援

ワーク基礎力形成支援は、キャリアに係る自らの価値観や、職場や社会生活場面で求められる役割とそれに対処する力に関する意識を促進させる支援です。

ワーク基礎力形成支援において目標とする事項は表1のとおりです。

表1 ワーク基礎力形成支援の目標とする事項

①	自分自身のキャリアを見つめ直し、今の自分自身を作り上げた過程を整理すること
②	自分自身の強みと課題に気づき、自己理解を深めること
③	周囲から期待されている役割を正確に理解すること
④	自分が望む働き方と周囲が期待する役割のバランスを理解すること
⑤	職場復帰後の働き方のイメージを作り、実現するための対策を検討すること

ワーク基礎力形成支援は、「キャリア講習」と「個別ワーク」で構成しています。キャリア講習は、全4回の「キャリア講座」で成り立っています。各講座の流れは図2のとおりです。

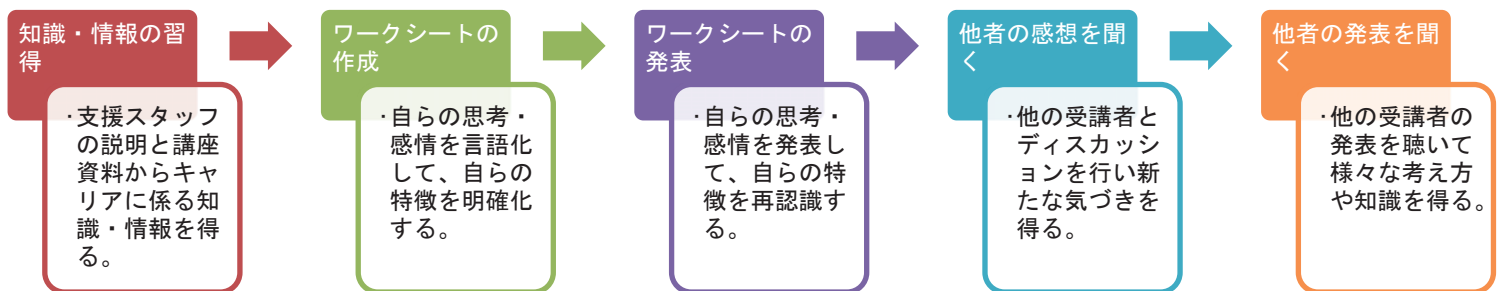


図2 キャリア講座の流れ

各講座の実施後は、受講者に対して個別相談を行います。個別相談では、受講者が各講座の内容を正確に理解できているか、何か疑問を感じている部分はないか、グループディスカッションで発表できなかった内容はないかなどを確認します。

その個別相談において、受講者がワーク基礎力を習得するためには「チームワークを大切にする理由」など働くことに関する基本的な知識を得る必要があると判断した場合、個別ワークを実施します。

個別ワークは、3種類の資料「働くこと」「働くためのモチベーション」「働くときに悩むこと」(P6)を用いて行います。

個別ワークの流れは図3のとおりです。

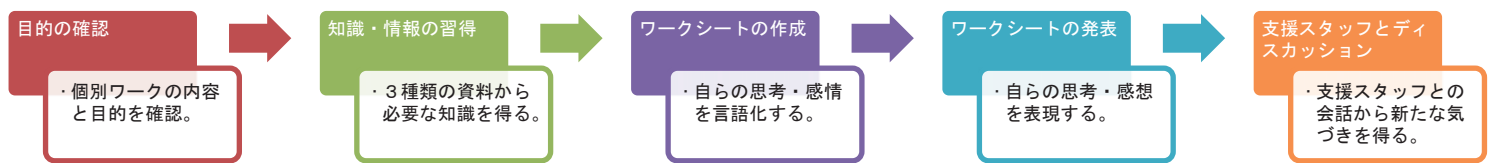


図3 個別ワークの流れ

ワーク基礎力形成支援の特徴は表2のとおりです。

表2 ワーク基礎力形成支援の特徴

①	受講者は、ワークシートを作成することにより、キャリアに関する自らの思考や認識を整理し明確化する機会となる。
②	受講者は、受講者同士のディスカッションで自らの経験を語ることで、自分自身を客観的に振り返り表現する機会となる。
③	受講者は、受講者同士のディスカッションで他者の経験や意見を聴くことで、様々な考え方や知識・情報を得る機会となる。
④	支援者は、受講者の行動観察や発表内容から、受講者の認知の特徴や価値観などを確認し、職場適応を図るための具体的な課題を把握する機会となる。

3 ワーク基礎力形成支援の効果

受講者のワーク基礎力形成支援についての感想・意見から、当該支援の効果は、次の事項にまとめられます。

表3 ワーク基礎力形成支援の効果

支援効果	受講者の感想・意見
思考や感情の整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来に関して迷路にはまっていた印象を持っていたが、職場復帰後のプランを書き出すことや他の受講者からの助言で整理ができた。
思考や感情の幅の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● グループディスカッションで思ってもいない角度から質問されたことで、自分では気づかなかった強みや価値観に気づくことができた。 ● 他の受講者の発表から、いろいろな考え方があり、人によって感じ方が違うことを知った。
自信の回復	<ul style="list-style-type: none"> ● 成功体験を見つけることができた。成功体験が自信につながることを知った。 ● 以前得意だったことをヒントにして、自分自身にアピールできることがあると知ることができた。
役割理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 図に書き出すことで自分と周囲との関係をイメージしやすくなった。 ● 自分自身が担う役割についてバランスの悪さを視覚的に確認することで改善点が明確になった。漠然とワーク・ライフ・バランスの見直しが必要としか考えていなかったのが、力を抜く役割、力を入れる役割など具体的なイメージを抱くことができた。